



## テーマ：東亜同文会の東アジアにおける教育活動とその展開

2008年11月2日（日）豊橋校舎記念会館小講堂

**【座長・藤田】** 皆さんこんにちは。ただいまから愛知大学の東亜同文書院大学記念センターが主催しますシンポジウムを開催させていただきます。メインテーマは「東亜同文会の東アジアにおける教育活動とその展開」です。今回は少し専門的な内容になりましたので、関心のある方でないとちょっと出席しにくいかなと思いましたが、われわれセンターのほうにしてみますと非常に関心のある重要なテーマでございまして、そういう意味で今日はそれぞれの研究をなさっている先端の方々をお呼びすることができました。東亜同文会と言いますのは東亜同文書院の経営母体でもございまして、1898年、そして面白いことに、11月2日と言うと今日です。今日設立されたんですね。そういう記念の日でもございますけれども、東アジアの教育のレベルアップを図って、東京同文書院という形で東京に中国からの留学生を集めましたし、そのあと朝鮮半島あるいは中国大陸のほうへ学校を作るという形で教育活動を懸命にしていくという歴史がございました。東亜同文書院および後の東亜同文書院大学も、そういう学校の1つとして展開してきたわけでございます。東亜同文会がどのように東アジアの教育のレベルアップ、あるいは教育改革を目指そうとしていたのかということ、こういう形で体系的に伺えるチャンスがあるというのは、非常に良いことだと思っております。今日はそれぞれのご専門の方々が多くお引き受けいただきご講演をいただくということになりまして、大変ありがたく思っております。

この会場の建物は古いものですからエレベーターが付いておりませんので、今日は3階まで上がってこられるのが大変だったんじゃないかなと思いますけれども、ひとつごゆっくりとご講演をお聞きいただければ幸いに存じます。

申し遅れましたけれども、私は現在この東亜同文書院大学記念センターのセンター長をやっております藤田と申します。今日は全体的な進行を私のほうでさせていただきますので、よろしく願いいたします。簡単なタイムスケジュールを申し上げますと、今日は4人の方から基本のご発表をいただきます。順番はプログラムで予告いたしましたように阿部先生、松田先生、水谷先生、武井先生です。お1人の持ち時間は50分ですが、45分ぐらいを一応目処といたしまして、あとの5分は会場の方から、そのご発表の事実関係に関してご質問がございましたらお引き受けしたいということです。松田先生と水谷先生の間で少し休憩をさせていただきます。4人の方のご発表のあと、コメントを栗田先生からお願いします。そのあと全体的に、質問がございましたら会場の皆さんから少しご意見をいただければと思います。終了時間は5時半を予定しておりますが、その直後皆さんの向かって左後ろにあるリュミエールというレストランで懇親会も予定しておりますので、特に講師の先生とお話してみたいという方はぜひ積極的にご参加いただければありがたいと思います。これは無料でありますので、お気軽にご参加ください。